

令和3年度 学校評価書

令和4年3月18日

学校法人長鳴学園

城南静岡高等学校・中学校

校長 村上 紀彦

教育目標

- ・ 先ず健康と明るい心
- ・ 道に従い優しく強く
- ・ 仕事は忠実、務は責任
- ・ 報恩奉仕の毎日へ

(達成度70%・A 達成度70%～40%・B 達成度40%・C)

I. 経営の重点に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
重点目標 (産業人としての知識・技能修得、豊かな人生観を熟慮させる)	<p>○コロナ禍での授業について、 ・密にならないように、学年を跨ぐ行事は行わない。 ・平日は黙食し教員が指導。 ・土日の部活動は午前のみ、午後のみとし 昼食はとらない。出来る限り対面での授業を行う。 ・パソコン上で講義を行い、ノートを作成、教員がリモートでノートチェックが出来れば理想である。しかし、現実的には、毎日登校時間を決めその時間にノート提出、クラス全員を見る場合は教員が2人必要？ ・全教科リモートになったときには、朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 ○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○ 高校ICT科については家庭学習でも落ち着いて検定勉強が出来るように指導する。 ○ 高校普通科、特に3年生は共通テストが代わり、暗記だけでは点数にならない。 家庭学習は常に進路を意識させる。 ○ 部活動は集団での練習制限される中での活動であるため常に個人練習が出来るように考えておく。 ○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指す。教員の情報処理能力向上と設備の充実。</p>	<p>○コロナ禍での授業について、 ・密にならないように、対面での授業を行う。少人数数学級で良い授業にはなるが、授業時間、日教が倍になる。大勢で行う場合は、広い部屋を使う。 ・もし、リモートになったら授業は全教科ではなく、出来る教員の教科だけを行う。実習・机間巡視や個別指導が多くなる教科は分けて考える。 ・パソコン上での講義は、出来る教員が行っているだけで、全員への講習は行っていない。今後は外部から講師を入れ行う必要がある。朝夕のHRまでしっかり出来るような対応をしていく。 ○ 中学は多読での実践的な英語や英検の資格取得を目指す。 ○ 高校ICT科についても、出来る限り対面で行う。 ○ 今年度の普通科高校3年生は全国的にコロナと共通テストの内容が定まらないため大変だった。 常に進路を意識させるため生徒との個別の連絡を密にする。共通テストの模試を取り入れ、今年度の問題形式を考え、家庭学習に目的意識を持たせる。 ○ 部活動は学校での練習が短くなり、短時間で効率的な練習が必要となってくる。毎日毎時間声をかけ、心が折れないように励ます。 ○ コロナ禍でも楽しく学べる学校を目指すも、校内は検温、消毒、マスクとの制限のほか。大きい声を出さないことや友達同士くっつかないことを心がけているため、生徒の元気なところや明るい所が見えなくなっている。外で大きい声が出せるところでは大きい声で歌や発表をしてほしい。密着が多くなってきたのでその都度注意。</p>	<p>B 今年度は普通科が全員共通テストを受けました。今年度は共通テストへの移行し、内容が大きく変化しました。全国的にも昨年に比べ平均点が大きく下がっています。しかし、暗記だけにとらわれずしっかり勉強した生徒は余り今迄と変わらなかったように思います。 学校、教員、生徒に問われることは、社会で通用する学習が出来ているかどうか。選択問題ではなく文章を読み込んで理解し、書き出す力があるかどうか。しかも進んでそれが出来る事が重要です。本校も検定資格を多く取得できた生徒とそうではない生徒に分かれたように思います。コロナ禍でも今までと同じような結果が出せるように工夫しなければならなかったと思います。 部活動の試合や発表会、検定が中止になったのが残念ですが、それに対応し次の手を打てることが生徒にも教員にも必要だったと思います。</p>	B	<p>コロナ禍で行事等の縮小などいろいろな面で生徒や職員の負担になっている日々が続いている。ケアをしっかり行って、希望が'持てる指導をぜひ心掛けていただきたいと思います。</p>

II. 各部・領域等に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得・検定勉強対策 ○基礎学力の向上 ○同等教育の充実 ○地域貢献教育への取り組み 	<p>ICT科では、商業科目の検定対策として特別講習と強化週間を年間2回ずつ設け、取得率の向上に取り組んだ。大学進学に求められる英語の資格取得対策として、英語検定強化週間も実施した。普通科では、基礎学力の定着に励み、学力の向上を図った。また、探究活動にも取り組み、市内を中心にフィールドワークを実施し伝統産業を学び問題点や解決策などを探究した。</p>	<p>A</p> <p>本年度も新型コロナウイルスの影響のため、学校行事を縮小・中止にすることで、授業時間数を確保し、教育活動に影響がないように取り組んだ。取得資格では、4年連続で税理士試験の簿記論に1名合格することができた。他にも日商簿記1級に2名、全経簿記上級に1名、全商全種目(9種目)に1名、ITパスポートに2名合格するなど、全国でもトップクラスの実績を残した。また、本年度の卒業生では、全商3種目以上1級合格67名を輩出し、数多くの資格を取得し卒業させることができた。地域貢献教育では、静岡市内の企業と連携して、マイクロプラスチック削減についての啓発動画作成に取り組んだ。</p>	A	<p>大変な時期の中、勉強も例年通り頑張っているように伺えます。まだまだコロナ禍は続きますが、それに負けないようなご指導を期待します。</p>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の徹底 ○愛される学校作り 	<p>日常的な生活指導に加え、定期的な服装・頭髪検査や遅刻者の調査・改善指導等を実施した。また、コロナ禍の現状で実施できる範囲で登校時における交通指導やマナー指導、校外巡視の定期実施など校外における風紀指導を徹底した。</p>	<p>B</p> <p>校外での生徒に対する様々なご意見等、数多くいただいた。校内での指導の甘さを痛感した。ただ、コロナ禍で郊外での指導が希薄になってしまい積極的な実施が難しい現状もある。交通指導においては交通安全切符の発布数も以前より増え重点的な指導が求められている。今後教職員一同城南生としての在り方・愛される学校づくりを念頭に生徒指導を実施したいと考える。</p>	B	<p>交通の問題は本校だけでなく社会全体の問題として捉えていかなければならないかと考えます。学校だけでなく、地域の人たちが協力してくれればいいですね。そのためには、地域に密着した学校として、認知度を上げてもらいたい。</p>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○100%進路決定 ○1.2年次からの進路意識の高揚 ○職業観の育成 	<p>コロナ禍ではあるが、例年に近い形で様々な講習を実施し進路意識の向上に努めた。小論文講習や面接講習をはじめとする様々な講習を対面または、リモートで実施した。進路ガイダンスにおいても感染症対策のガイドラインを策定して予防措置をとって例年通りの規模で開催できた。高校3年生の進学者の傾向は総合型選抜が増え上位の大学を目指し、自らの努力で合格を勝ち取った。就職希望は少なかったが、比較的多分野に見学会に向かうよう指導し、進路決定に向けて具体的に活動させることができた。</p>	<p>B</p> <p>多くの生徒が自らの適性を見極め、希望通りの進路に進むことができた。コロナ禍で県外への進学を敬遠する傾向もあるが、上位私大へのチャレンジも多く、年末までの総合型である程度結果を残した。小論文や事前課題などあらゆる分野にわたっているため、今後は教員の指導力向上に向けての取り組みを充実させる必要がある。また、事務作業の効率化を図るため、ICT活用を積極的に行っていくことを今後の課題としたい。</p>	A	<p>進路に関しては例年通り良く指導されているように感じられます。学校を訪問した際にロビーで多くの生徒の進路先を見ることができました。評価に関してはもっと自信を持った評価でもいいのではないのでしょうか。</p>

II. 各部・領域等に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A～C)	評価	学校関係者評価委員から
保健部	○感染症対策 ○心身の健康保持増進	前項対象の薬学講座をオンライン配信にて実施し、薬物に対する正しい知識を身につかせた。コロナウイルス感染症対策として検温アプリへの入力徹底、マスクの正しい着用・換気等を呼びかけた。	B 6月には感染者が複数出たことで、学校閉鎖となってしまう。第6波と言われる時には周囲の状況と比べたら比較的少人数で抑えることができています。2年を越えるコロナ禍で今後は生徒のメンタル面の支援も踏まえつつ、通常の教育活動が継続できるよう引き続き感染症対策を呼びかけたい。	B	コロナ禍においては予期せぬ出来事があります。学校として適切な判断をお願いします。
部活動	○生徒の興味・関心を援助し、社会性・創造性を育てる。 ○より高いレベルでの大会等で結果を残す。	基本的生活習慣の育成を柱として、厳しさの中にも慈悲愛に満ちた指導を心がける。運動部においてはスポーツする楽しさや喜びを忘れず指導にあたる。文化部においては芸術系や学問系の技術向上を自発的・自主的に活動できるような指導にあたる。	A 本年度はコロナ対策を徹底した上で、各種大会が行われた。全国大会に出場した部活動(水泳・テニス・体操・バスケットボール・簿記・外語)、活発な活動をする事ができた。その中でもバスケットボール部は県中学総体で優勝し、初めて全国大会に出場した。また水泳部は県高校総体で女子総合優勝、体操部は個人で全国優勝とコロナに負けない活躍をした。	A	いつも部活の活躍の報告を楽しみにしています。本年度もコロナ禍に関わらず頑張ったと思います。生徒の頑張りだけでなく先生方の指導があつての結果と喜んでおります。
教職員の 資質向上	○授業改善研修 ○ICT活用の研究	先生方一人ひとりの研修授業を開催し、分かりやすい授業を目指す。コロナ禍の中での個別最適な学びと協働的な学びを実現するためClassiの活用、スタディサプリの活用をするとともに、PCやiPadを使用した授業高層の立案をする。5GやAIなどの研究を行い、将来に利用できる授業方法を考える。	A 研修授業はほとんどの先生方において研修または参加が行われ、授業改善を目指した。Classiの職員アンケートを行い、利用方法を考えた。楽天より講師を招き「5Gの未来」について講演をいただいた。立志舎より講師を招き「AI」についての講演をいただいた。PCとiPadについての規約を立案をした。	A	教職員の研修等を積極的に行っているようです。ますますIT化が進み先生方も授業意外に覚えなければならぬ事が多いと思いますが、生徒のことを考えて頑張っていたいただきたい。
保護者との連携	○学校と保護者双方で生徒を育てるという意識で連絡を密にする	メール等を利用して学校の状況を発信した。また、卒業式等の大きな行事については、参加人数を限定するなどして対応した。	B コロナ禍が続いているため保護者が来校しての行事は大幅に制限されたが、電子機器を利用してのお知らせは密にできた。また、保護者面談などは感染対策を実施して実行できた。	B	コロナ禍の中会合など大きく規制されてしまうことが多々あるかとは思いますが、その中で保護者との接点をうまく見つけて生徒、保護者、教師の関係をうまく作ってください。
地域との連携	○学校行事の地域の方の参加の呼びかけ ○地域の行事に対しての職員・生徒の参加 ○学校施設の貸し出し	今年もコロナ禍のため、行事等は縮小・見送りとなるが多くなると思われる。	B 市のイベント等に学校施設を貸し出す日もあったが、コロナ禍のためあまり利用する場面が見られなかった。	B	学校の施設をなるべく利用できるような体制を構築してください。

II. 各部・領域等に関すること

	目 標	具体的取り組み	最終評価(A~C)
施設・環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の充実 ○プロジェクターの設置 ○コロナ感染症対策 	ICT科の新入生にパソコン、普通科の新入生及び中学生にiPadを整備する。コロナウィルス感染症対策を強化する。教室用プロジェクター、新しいパソコン教室の整備する。建物の漏水補修工事を行う。	<p>A</p> <p>パソコン等の機械類については半導体不足から、一部商品がなかなか入荷できない事態もあったがなんとか導入に漕ぎ着けている。感染症については保健部と連携して取り組んだ。漏水補修工事は本館5階バルコニー及びプールに対して行うことができた。</p>

評価	学校関係者評価委員から
A	施設の補修などお金が掛かるとは思いますが、生徒が不便のないようにお願いしたい。

学校からの経営のまとめ(成果と課題)	
<p>昨年に続き、今年度もコロナの影響で、1年生の授業が静かに行われていた。おとなしいのではなく、出身小学校や中学校でもコロナの影響で静かな学校生活を送ってきたと思われる。静かに授業を受けるのは非常に良いことなのだが、少し暗くも感じられる。卒業式から入学式まで縮小され制限のある中で行われてきました。新入生研修も国歌や校歌の練習や校訓の唱和など大きい声を出しての行事はことごとく中止されました。生徒募集では生徒が中学校に行き行ってプレゼンする機会がすこしずつ復活しました。これからの社会ではプレゼン能力が問われます。会議もリモートが増え、事前にまとめた資料に従ってカメラに向かってしゃべるようになります。発信する能力が必要です。聞き手もじっとしているのではなく、うなずいたり手を動かしたりと相手の話をしっかり聞いているという確認動作が必要です。このコロナ禍で特に情報処理能力とコミュニケーション能力が必要になってきます。本校では今後どこに向かったらいいのか、どう行動したらいいのかを考える能力を培っていききたいと思います。服装や礼儀とともに未来を生徒とともに考えていきます。</p>	

A	コロナ禍の中、不便となるものがまだまだ多いとは思いますが、学校としてできることは最大限実施して頂きたいと思いません。
---	--